
機動戦士ガンダム

関橋 大

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダム

【Nコード】

N6180Y

【作者名】

関橋 大

【あらすじ】

U・C・0198を舞台にガンダムを書きはじめてみました「もし宇宙世紀がまだ続いていたら」というところでしょうか
ストーリー自体はオリジナルです

年代的に富野様のガイア・ギアや

G-SAVIORとカブってしまうので要、注意です

小説の勉強も何ひとつしないでノリで書きはじめてしまいました

ガンダムというタイトルに見合った中身になるよう努力しますので
さらっとでも

興味のある方は駄文ですがご一読お願いします

ガンダムのあのリアリティや虚しさ、そして深さを感じていただけたら嬉しいです！

そして少しでも

読まれた方は感想のほどよろしくお願いします

待ってます！

どんな感想也大歓迎です

批評は改善できるように努力します

もしも気に入っていただけたら口コミで拡散お願いします笑

更新はとても遅くなると思いますが
ぜひ、ご一読を！

ちなみに続編も見越して書いております

時代背景・設定（前書き）

本編の投稿前に背景や設定を書きました

本編中でもなるべく解説の文を入れる予定ですが
一応補足です

一章ごとに設定は書くつもりです

時代背景・設定

時代背景・設定

？

U・C・0193

地球連邦政府は「二世紀計画」を立案、コロニー群や火星圏の開発を推進。

その一環として、いくつかのコロニー群や資源衛星などを1つの単位として自治を行わせる「自治域構想」を実行。

？

U・C・0194～0195

旧世紀以来の権力を守ろうとする自治域化反対派と推進派との間で争いが起こる。

エスカレートした論争は実力行使へと変わり、地球連邦内の内乱となるが、事実上推進派の勝利となる。

ダカールにおける大規模な戦闘は後に「ダカール事件」と呼ばれる。

？

U・C・0195

火星面都市、ティコ・ブラエ市において火星連邦政府樹立。

同年、コロニー公社「コロニカ」が誕生、火星圏に観光型コロニー「テキサス」の建造を開始。

？

U・C・0196

火星圏に、より地球の環境を再現しようと新たな工法を用いた新型

コロニー「ニプラント」が建造開始。

同年、火星面基地ホルハリスに火星連邦直轄の火星連邦軍技術開発研究局「マーズルナ・エレクトロニクス」設立、第5世代となるMS群の開発に取り組む。

「NT計画」におけるMSの“専用機化”

また、U・C・0194に発見されたオーキソン粒子の軍事利用を目指す。

？

U・C・0197

地球と月を直接自治域E1、

地球圏のコロニー群や資源衛星を第1自治域ベネットとして確定。

第2自治域の確定に向けて前進。

？

U・C・0198

火星連邦軍は、ダカール事件で戦果をあげた兵士と火星連邦軍内の成績優秀者で、火星連邦軍独立治安維持部隊ニタ・ルイーテ隊を組織、

NT計画のMSを試験的に配備。

世論は自治域化をはじめとする二世紀計画を賞賛したが、地球連邦政府はE1外のエリアへの援助や活動を怠り、それ等に対する不満が広がった。

逆に火星連邦政府の大衆からの評価は高まることとなった。

主要登場人物（プロローグ）

（プロローグ）主要登場人物

○アリス・ロンダル（男）

「ダカール事件」における戦果からニタ・ルイーテ隊に配属されたパイロット。階級は大尉。

月の孤児院で育った。

赤茶けた髪色で癖毛、髪型は水嶋ヒロのようなイメージ。左目の下に泣きぼくろがある。20歳。

○サンラフ・ベルデ（男）

火星連邦軍での成績からニタ・ルイーテ隊に配属されたパイロット。階級は少尉。

アリスと同じ孤児院で育った。

やや長い黒髪でカチューシャがトレードマーク。19歳。

○シフィル・シャレティ（女）

火星連邦軍での成績からニタ・ルイーテ隊に配属された軍人。通信士を務め、階級は少尉。

髪色は薄茶でミルクティー色のような感じ。セミロング程度の長さで左側の前髪を左耳にかけている。20歳。

メカニック解説（プロローグ）

（プロローグ）主要メカニック解説

U・C・0198において、技術開発を牽引するのは火星のマーズルナ・エレクトロニクスである。

ニタ
NT計画

ショットクローなど特殊な兵装を量産機がもつようになり、構造も大変複雑になったMSを顧みて状況やパイロットに特化させる“専用機化”と簡略化を試験的に行う計画。

NTシリーズのMSは全てこの計画に基づくものである。

オーキソン粒子

U・C・0194にアーノルド・オーキソンらによって発見された物質。

詳しい性質はまだ解明されていないが、

？ビームのように飛散する

？ガンダリウム等の物質を瞬時に腐食させる

？圧縮しやすい

ことが分かっている。軍事利用の為の開発がなされている。

○輸送船“キャメル”

火星連邦政府の一般的な輸送船。

○戦艦“メイノリツサ”

火星連邦軍所属の新造艦。一個中隊を搭載可能である。
ニタ・ルイーテ隊の母艦として航行する。

○ガンダムNT-100 “イルメイラ”

型式番号：MMS-NT-100

NT計画で開発されたMS。“専用機化”により射撃性能・ブースター推力に特化している。

大型ブースターや小型プロペラントタンクを装備し、

兵装はビームライフル、ビームサーベル×2、腕部ビームランチャー×2、腕部大型ヒートサーベルなど

ニタ・ルイーテ隊に配備され、運用される。

○ガンダムNT-103 “アズベル”

型式番号：MMS-NT-103

NT計画で開発。射撃性能と索敵能力に特化している。

実弾系の射撃兵装を多く装備し、レーダー類も装備する。

兵装はビームライフル、ビームサーベル×2、ミサイルポッド、右腕部ロングレンジキャノンなど。

ニタ・ルイーテ隊に配備された。

主要登場人物（プロローグ） 2

（プロローグ）主要登場人物 2

付け足しです。

詳しく書けないのはネタバレ防止のためなのでご容赦ください

○アルダ・シューク（男）

・プラント の住民受け入れ開始に合わせ、輸送船でサイド7から渡ってきた少年。政治家の両親を持ち、異常に大人びた思考をする。謎の輸送船襲撃事件に巻き込まれる。 8歳。

○ディノ・アックスバイス（男）

輸送船を襲撃したメンバーの1人。階級は大尉。アッシュ（グレー）のやや長めの髪で真ん中分け。イメージは松田翔太のような感じ。内乱における反対派議員の家系で、差別を受けてきた。 24歳。

○ギーン・マシエット（男）

輸送船を襲撃したメンバーの1人。階級は中尉。非常に好戦的な性格である。シルバーの短髪だが、後ろ髪だけ伸ばして三つ編みにしている。市原隼人のようなイメージ。 25歳。

○ライカ・シノザキ（男）

輸送船襲撃メンバーの1人。階級は少尉。前髪が長めで左右に流している。金、黄色系統のメッシュが入っている。イメージは溝端淳平みたいな感じ。反対派議員の家系である。 20歳。

○サバイア・アロウ（女）

輸送船襲撃メンバーの1人。階級は中尉。あまり感情を表にださないが、的確な状況判断で戦況を捉える。髪色は臙脂っぽく、真ん中分けで外ハネ。反対派議員の家系である。20歳。

プロローグ（１）（前書き）

毎回この流れで行きます

登場人物

メカニック

本編

って感じです

今回はたまたま時間がありましてすぐ更新できましたが
これからスパンは長くなると思います

どうぞ長い目で見てやってください！

ちなみに

プロローグはまだ続きます

プロローグ(1)

0198

(- プラント は近代科学技術の粋を尽くして建造された、夢の半球体型コロニーです。地球連邦政府と火星連邦政府、そして我がコロニカ社の共同開発による広大な空間の中には、より忠実に再現された豊かな自然環境が作られ、皆様を癒してくれるでしょう。しかし一度市街地に入れば、政府公認の安全・安心の店舗が軒を連ね、豊かな毎日をサポートいたします。さあ、新しい生活の始まりです。ようこそ、宇宙のオアシス - プラント へ！)

宇宙は目の前にあった。

輸送船の窓越しに見るそれはどこかよそらしく、窓に映る自分の瞳の色と溶け合って偽物の色を晒し続けていた。

その本当の色を見ようと、人類は太古の昔から追い求めてきた。改暦以後、その活動の範囲を押し拡げてきた歴史も、もうじき二百年となり、最後の大きな戦乱からも半世紀近くが過ぎていた。さらに地球連邦政府は「二世紀計画」を打ち出し、再び人類は生活の場を拡大しようとしている。当初は自治域構想を主軸に進む予定であった二世紀計画だったが、「ダカール事件」と呼ばれる戦闘を主とする地球連邦政府内の内乱により自治域構想の実現は滞り、二世紀計画の一環である火星圏開発ばかりに大衆の注目は向けられていた。火星面都市、ティコ・ブラエ市の完成を契機に、火星面基地ホルハリスの稼働、そして火星連邦政府の樹立と進んだ開発は、火星圏にコロニー群を建造するにまで至り、その記念すべき第1号が - プラント であった。

ずれている。

こんな大人も興味を持たないような話を、10歳にもならない息子に何度も教え込む政治家の両親たちも、我が身の保身の為だけに地球連邦という檻の中に留まろうとする他の政治家たちも。

住民の受け入れを開始した　　・プラント　　へ向かう輸送船キャメルの窓際で窓外を眺めながら、8歳の少年アルダ・シュークは嘆息をついた。やっと馴染んできたサイド7の友人達と別れ、両親と共にこの輸送船に乗船してからどれだけ経っただろうか。今は綺麗に整えられた黒髪でさえ鬱陶しく感じられる。

その場で立ち上がって周囲を見渡してみても、40歳、50歳の政治家達ばかりの船内にアルダは再び小さな嘆息をもらした。二つ一組の座席が三列、50人はいるだろう。その中に見事に馴染んだ両親は、自分とは反対側の窓側、右斜め前の方向の座席に並んで座っていた。黒髪をオールバックに整え、高価なスーツを着こんだ恰幅の良い父と、パーマをかけたブロンドの華奢な体型の母。よくテレビ番組で見かける“政治家夫婦”そのものだ。

ダカール事件は、その後遺症として自治域化推進派の成り上がり
と反対派の没落、そこから生まれる家系の差別を残した。推進した
くはないが反対する勇氣もなく、優勢と思われる推進派についての両親は、見事に成功を手に入れたのだった。

その恩恵で今ここに自分がいると思うと、アルダは一層自分と世界の「ずれ」を感じずにはいられなかった。

右隣に座る太った男性が快くは思っていない目でこちらを見ていたことに気づいたアルダは座席に座り直し、男性の発するコーヒーやタバコの混ざった独特のにおいから逃げるように顔を窓へ向けた。

（　　本機は、地球連邦政府の管轄する範囲を抜け、火星連邦政府の管轄範囲内に入りました。到着まで、もうしばらく宇宙の旅をお楽しみ　　）

船長のものと思われる声が全てを言い切らないうちに、前方から耳をつんざくような爆音と、同時に小さな悲鳴が起こり、アルダは心臓が飛び跳ねるのを知覚した。立ち上がるという思考も起きず、

まだ耳鳴りの残るアルダの耳に、音のした方向から男の声が聞こえた。

「騒いだり下手に動いたりしないでもらいたい。そうすれば危害は加えない。もちろん議員様のボディガードもだ」

状況に逆行するような、冷静で落ち着いた声が張りつめた空気に響く。全員が、叫び出したい衝動を必死で抑えているのが伝わってくる。

「言ったほうが騒がずにいられるならば言おう。この輸送船はあなた方以外にも、月からの荷物を運んでいる。それを奪うことだけが、我々の目的だ。だから誰も変な気は起こさなくてももらいたい。船長も殺してなどいない」

そう言い終えると、その男ともう1人別な人間のものと思われる足音が、貨物ラックのある船尾側、つまり自分達の座る方向へ徐々に近づいてくるのが分かった。次第に大きくなる足音に、アルダは全身が硬直するのを感じ、四肢の先だけが震えていることに気がついた。

足音が極限まで迫り、座席越しに二人の男が見えようというそのとき、足音よりも大きな金属音が自分の右隣で弾け、アルダは自分が拳銃で撃たれたかのような錯覚に陥った。「動くなっつつてんだろうが！」初めて聞くもう1人の男の声にはどこか喜びが混じっており、アルダは隣の太った男の足許に転がる金属製のコーヒークップを見た。「やめろ、ギースン！」という最初の男の声が聞こえた刹那、二度目の銃声が船内に響き渡り、その眉間に銃弾を受けた太った男が無様に呻き、涙のように流れる赤黒い血を垂らしながらアルダに覆いかぶさるようにくずおれた。太った男の亡骸越しに見えたギースンと呼ばれた男の満足げな表情に、アルダはひどい悪寒を感じた。

その場の誰もが息を飲んだ少しの間の直後、それまで抑えていた恐怖を抑え切れなくなった何人かの乗客達が一斉に悲鳴を上げて座席から飛び出し始めると、ギースンは三つ編みを揺らしながら仲間

の制止を無視して立て続けに銃声を響かせた。

まだ体温も独特のにおいも残る太った男の亡骸をなんとか押しやったアルダは、撃たれて倒れる人々の中にブロンドにパーマをあてている華奢な体型の女性とそれを庇うかのように崩れる黒髪の恰幅の良い男性を視界の端に見た。

「もういい、やめろ。こんなことが目的ではない！」

ギーアンの銃をもつ腕を掴み、最初の男が威圧的な声色で話す。

「分かったよ、デイノ、仮、隊長殿」

嘲笑するようにそう返したギーアンは、デイノと呼んだ男の手を払いのけると鼻歌を歌いながら貨物ラックへ繋がる扉を開けて出て行った。後を追うようにして扉から出て行くデイノから小さく、すまない、と聞こえた気がした。

もう誰も立ち上がるうとはせず、操縦席と客席を見張る三人目の男だけが、この空間で動くものになったようだった。

床に転がる亡骸のいくつかを知っている気がして、アルダはその場から二度と動きたくなかった。

体中についた他人の血が自分の体温を奪っていく感覚に、アルダは全身の肌を粟立たせた。

プロローグ（2）（前書き）

プロローグの続きです

紛らわしい人物が多いのですが
主人公は基本的にここから登場のアリスのつもりです

まだまだプロローグは続きます

長いですがどうか飽きないで！

ユニコーンもプロローグ長いですし笑

プロローグ(2)

(出撃待機中の全MSへ。護衛目標からの救難信号をキャッチしました。原因は不明、現宙域に敵機らしき反応ありません)
突然起こった不測の事態に、《イルメイラ》のコックピット内のアリス・ロンダルは虚を突かれ、ディスプレイに膝をぶつけた痛みでまどろみから引き戻されることになった。

何が起こった？ - プラント へと住民を運ぶと同時にマーズルナ・エレクトロニクスへの物資を運ぶ輸送船の護衛を任され、遠方からの護衛を火星連邦政府の管轄内から開始してものの数分。またいつもの押し付け仕事か程度に思っていた矢先、耳に響いたダカール事件以来の警報に、アリスは全身の毛が逆立つのを感じた。

突貫工事で開発されてきた火星連邦管轄圏内の実状を呈してか、まだ最後の8機目も配備されていないニタ・ルイーテ隊にとって、さらには火星連邦にとって、敵の存在が確認されればこれが最初の実戦となるからだ。

その驚きは全員同じであつたようで、アリスと同じく待機中だった左舷MSデッキの 他3人や、右舷デッキの3人も驚きの声を隠せずにいる。

(今現在の状況は非常に不明瞭です。 1番機イルメイラと2番機アスヘルは、調査の為に至急発艦お願いします)

と続いたオペレーターのシフィル・シャレティの声に、「了解」とだけ返したアリスは、自分の心の底に不謹慎な高揚が沸き上がるのを知覚した。このように発艦するのもいつ以来だろうか。

目を閉じてひとつ深呼吸をしたアリスは、操縦幹を手をあて直すと、いつもより重く感じる《イルメイラ》の足をカタパルトへと歩かせた。

射出装置に《イルメイラ》の両足を固定したアリスは、オールビユーモニターに広がる漆黒の宇宙に開放的な気分を味わった。

（何が起きるか分かりません。気をつけて）と個別回線で発されたシフィルの声に、「この戦いが終わったら、一緒に映画でも行こう」と冗談半分、本気半分で答えたアリスは、笑った声で（わかりました）と返ってきた返事に胸を撫で下ろした。

続けて、「少し先に出ておく。後から追い付いてこい」と2番機アスベルのパイロット、サンラフ・ベルデに言葉を放ったアリスは、カウントがゼロになると同時にフットペダルを踏み込んだ。

「アリス・ロンダル、《イルメイラ》、出ます！」

カタパルトから射出されると、戦艦の速度をそのまま引き受け、大型のブースターでさらに加速した《イルメイラ》のコックピット内で、アリスはみるみる遠ざかる母艦を見遣った。メイノリッサ

一筋の淡い光が、底抜けに広がる暗黒に飲み下されていった。

ブログ（3）（前書き）

気になった部分などあれば指摘していただけると嬉しいです！

そうでなくても感想や評価など

暇な時に書いていただけると嬉しくて泣きます（笑）

ブログはもう少し続きますが
これからもよろしく願います

プロローグ(3)

後から追いついてこい

その言葉を聞いた瞬間、サンラフ・ベルデは頭から爪先まで電流が駆け抜けたのを確かに知覚した。快活に返事をしようと思ったのだが、言葉に詰まる間にアリスの乗る《イルメイラ》はカタパルトから消えてしまった。

ああいう人になりたいんだ、自分は。

サンラフは改めてその思いを反芻した。偶然にも月の同じ孤児院出身で、年齢だけでなく常に自分の先を行く存在。パイロットとしても優秀で、実戦経験もこの身の比じゃない。リーダーシップ、いや、カリスマ性とも言うのだろうか

(いつまで突っ立ってるつもりだ、シミュレーターじゃねえんだぞ)

我に帰ったサンラフは、声の主である部隊一のベテラン、マルス・バニツシュに咄嗟の謝罪をすると、先程アリスが飛び立ったばかりのカタパルトへと《アズベル》を向かわせた。

追い討ちをかけるように捲し立てる右舷MSデッキの3人の言葉を無視しながら、サンラフは射出装置に《アズベル》の足を固定した。

一番の年少者ということと、‘非’ダカール上がりの火星連邦製ということもあり、子供扱いは毎度のことだったが、実戦ではそうはいかない。生きるか、死ぬかだ。

(肩の力、抜いて行けよ)

その言葉に、サンラフは動悸が収まるのを感じた。バズ・デクスマン、自分と同じ年で同じ火星連邦上がりのパイロットだ。ただ、子供扱いされるのは自分だけなのだ。

「了解です！」

バスにだけそう返し、まだ言い慣れない言葉をコールした。

「サンラフ・ベルデ、《アズベル》、行きます！」

フットペダルを踏み込んで加速させた《アズベル》は、数分前の《イルメイラ》と同じような軌跡を描いて飛んだ。

そのコックピットの中で、サンラフは再び早くなる鼓動を感じ続けた。

メカニク解説（プロローグ） 2（前書き）

毎回毎回説明をはさんですいません！

第1章以降は一発でまとめるように気を付けます

メカニック解説(プロローグ) 2

(プロローグ) 主要メカニック解説 2

プロローグ(4)から登場する「黒いMS」について
ネタバレしない程度に解説

○「黒いMS」《ダル・フィール》

型式番号：CCM-02F(D)

輸送船襲撃事件において初めて確認された、通称「黒いMS」
平均的な性能を有するが、比較的小型で機動性に富む。

カラーリングは黒を基調とし、全体的なシルエットはデナン・ゾンの
的なイメージ。

ただし頭部は従来にはないタイプで、中央に大きめのメインカメラ
があり、ベルティゴやメリクリウスなどに近い。

兵装は、ビームライフル、腕部マシンガン×2、ビームサーベル×
2、背部拡散ビームキャノン、など

○《ガー・フィール》

型式番号：CCM-03F(G)

上記の《ダル・フィール》の改良型。より中々近距離戦に特化し
ている。

主に小隊長クラスのパイロットが搭乗する。同じく黒を基調とし、
上がデナン・ゾンならこっちはデナン・ゲー。

兵装は、ビームライフル、腕部マシンガン×2、ビームサーベル×
2、背部ミサイルポッド×2、など。

プロローグ（４）（前書き）

本編から読まれた方でもし分からない部分があれば
解説も覗いてみてください

たぶん解説しているはずですよ！

それでも分からない部分があれば
伝えていただければ解説を投稿します

そろそろプロローグも終わりに近づいてきました
MSの戦闘をうまく描写できるかが勝負ですね！

プロローグ（４）

何一つ理解できなかった。今分かることと言えば、自分が泣いているらしいことぐらいなものだった。

状況に理解が追い付いていないのに、泣かなければと判断した脳髄が勝手に涙を流させる。アルダ・シュークは思考を止めた頭で、交わされる男たちの会話を聞いた。いつの間にかノーマルスーツを着ている。

「コンテナ切り離しの準備は完了だ。ライカ、そっちはどうだ？」
貨物ブロックへと繋がる扉から頭を出して、デイノと呼ばれていた男が乗客と操縦席を監視する３人目の男に言う。

「パイロットはオート航行を止めさせた後に眠らせたんだけど、救難信号を発信したみたいなんだ。レーダーにもこっちに向かう機影が２つある」

ライカと呼ばれたどこか軽薄そうな男が答える。

「救難信号をキャッチしたにしても早すぎるな……。サバイアの《ダル・フィールブル》はまだ来ないのか？」

「いや、来たみたいですよ」

ライカが輸送船の窓外に目を向けながら言った。アルダも目を向けてみると、宇宙の黒とはまた違った黒色のなにかが、ブースト光を背中に背負ってどんどん接近するのが見えた。

次第に大きくなったそれは、MSらしい黒い人型をアルダの網膜に焼き付けた。全体的に角の少ない丸いシルエットで、同じ機体を２機ワイヤーで牽引している。この男たちの機体だろう。アルダはテレビ番組の特番で見た、フロンティア？襲撃に使用されたMSを思い出した。

しかし頭部はそのMSとは大きく異なり、人間で言えば顔の中心

にあたる所にあるメインカメラらしき部分が、不気味な水色に近い光を宇宙の漆黒に浮き立たせている。

輸送船に限りなく近づいたそれは、船内を覗き込むようにして通り過ぎ、船尾のコンテナ側へと消えた。

「俺はサバイアの《ダル・フィードル》に同乗してコンテナの牽引をする。ライカはギーンともう2機に搭乗して離脱の援護を頼む。護衛の動きが思ったより早い。急ぐぞ」

そう発したディノはヘルメットのバイザーを下ろすと、船尾の方向へ戻っていった。

「了解」と応じたライカも、監視の必要はないと判断したのか、後を追うように船尾へと消えていった。

再び沈黙が訪れた客席で、アルダはふとさっきとは反対の窓外に目をやった。まだ流れようとする涙に滲んで、2つの星が一際強く光って見えた。

報告です！

これは本編とは全然関係ない

私からこの小説を読んでくださっている皆さんへのお詫びです！

私実はまだ学生でして

遊び過ぎたせいか成績が恐ろしいことになり

最近このガンダム の更新が長いこと滞っております

このあいだに飽きてしまった方や

もう止めたのかと思われた方もいらっしやるかと思えます

本当にすいません！

小説は書き続けないとダメですよ

しかし！

しばらく封印していたこのページを開いてみると…

…感想が来ている！

庚さんからのありがたひありがたひ感想でした！

読んでくれている人が確かにいる、という実感が

忙しさを理由に怠けていた私にパワーをくれました（笑）

これから

用事の無い日はなるべく毎日更新しようと思います

そこで

少しでも私の壮大な計画をだらだら話させてください笑

このガンダム を書き終えたら

その続編

「機動戦士ガンダム」を書いていく予定です

この2つはこのサイト、小説家になろうで書いていくつもりですが
私の中にはもう1つ、野望があります

の後か の後か

それは未定ですが

このサイトとは別の

E エブリスタで

現在構想中の

「切り裂きジャックの日記（仮題）」を連載する予定です

デスノートとかあっち系の完全オリジナル小説なんです

書く時はこちらのサイトでもお知らせしますので

続けて読んでいただけたら嬉しいです

そんなこんなで

色々と先のことばかり語ってきましたが

やっぱりまずは目の前のガンダム からですね！

ここから始まってネット上で話題になって…

サンライズの誰かの目に触れて…フフフ

そんなアホみたいな夢を描きながら今日も を書いています

私の野望に協力していただける方がいらっしやったら大歓迎ですよ！
ガンガン拡散しちゃってください！（笑）

ここまで読んでくださってる方はいらっしやるんでしょうか？（笑）

これからもどうぞよろしくお願いいたします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6180y/>

機動戦士ガンダム

2011年12月5日18時10分発行